

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）下における 大阪河崎リハビリテーション大学の動き

One Year Experience of Osaka Kawasaki Rehabilitation University Under COVID-19

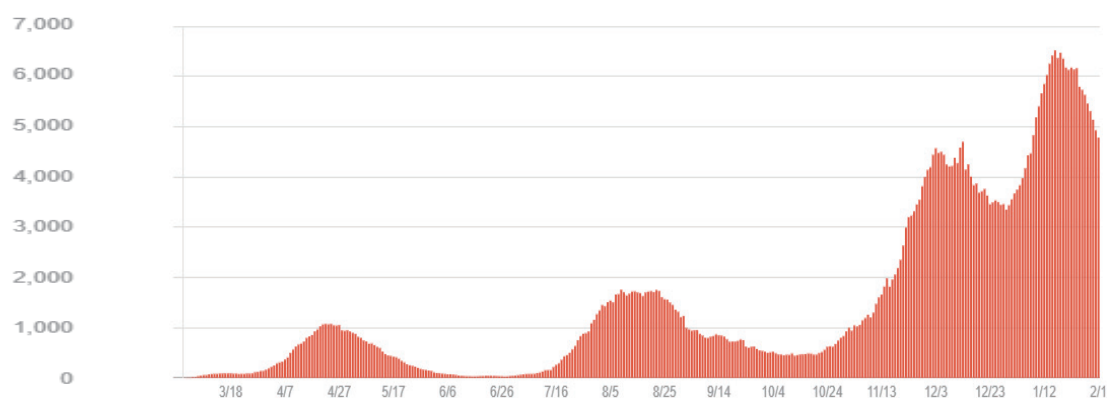
学長 武田 雅俊

ABSTRACT

The year of 2020 started with COVID-19 pandemic, which affected all aspects of our social life including educational activity of university. Osaka Kawasaki Rehabilitation University was one of a few universities in Japan which recorded no infected students as of February 2 2021.

We had to shut down our university campus due to the declaration of emergency by Government during April and May, 2020. We started the class step by step in June and we were able to reopen the full schedule of classes in July 2020, completing the first semester two weeks behind schedule. We started the second semester with the modified curriculum which enabled us to switch from face-to-face class into the hybrid classes as soon as the third wave of pandemic attacked Osaka area. We continued our classes in hybrid style since December 2020 until the end of the academic calendar, with the record of no infected student in our university.

2019年12月中国武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、わずか数か月間で南半球を含む全世界に拡大しパンデミック（pandemic）となった。7月末には世界の感染者は1600万人、死者数64万人を超えた。わが国においても2020年4月7日に緊急事態宣言が発令されその対策が講じられたが、7月になり第二波ともいべき感染者の増加が起これ、7月末には感染者数3万人を超えた。2020年9月末の時点で全世界の感染者数は3300万人、死者数は100万人を超えた。わが国においては感染者数は9万人を超え、死者数は1,600人を数えた。2021年2月1日時点の我が国の新規感染者数の推移を図に示す。



わが国において新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は2020年1月頃から拡大し始めたが、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号でのクラスター発生は大きな衝撃であった。80代男性乗客が新型コロナウイルス感染症に罹患していたことが2月1日確認され、2月3日に横浜港に停泊したダイヤモンド・プリンセス号の船員乗客に対し検疫が実施された。一部の検査結果が2月4日に判明し、31人中10人にSARS-CoV-2 RNAが検出された。ダイヤモンド・プリンセス号には世界57カ国から船員1,068人、乗客2,645人の計3,713人が搭乗していたが、4月15日までに712人の感染者が確認され、少なくとも14人の死亡が確認され、致死率2.0%は衝撃的であった。

本学では3月初めに、学内に感染拡大予防の注意を掲示し、手洗いの励行、マスクの着用、そして、体調不良や37.5度以上の発熱がある場合は自宅待機とし無理に登校しないように呼びかけた。本年4月1～3日にオリエンテーションを行い、4月4日の入学式は、感染拡大予防のために、ご来賓・新入生のご家族・在校生のご参加をお断りし、河崎記念講堂で社会的距離(social distance)を維持した形で新入生をお迎えした。多くの大規模校が入学式を取り止めざるをえなかった状況でオリエンテーションと入学式を行うことができたことは、本学にとってはありがたいことであった。

4月7日に緊急事態宣言が発出されたために、4月から学生が登校して対面授業を行うことはできない状況となった。学生には自宅学習を呼びかけて登校禁止の措置を取り、教職員も時差出勤や在宅勤務の体制とした。4月からは毎週二回の危機管理委員会を開催し、授業体制について相談し、4月と5月は遠隔授業にて対応することを決定した。危機管理委員会は、学長、副学長、三専攻長、教務委員長、学生部長、事務局長により構成し、7月までは毎週二回、8月以降は毎週一回の開催とシームレスな決定を心掛けた。若い教職員が中心となりオンライン講義の体制を整え、FD・SD研修会で教員が勉強してなんとかリアルタイムでのオンライン講義を始めることができた。遠隔授業には、郵便やメールを利用した課題対応型、パワーポイント画像配信によるオンデマンド型、ビデオ配信と双方向通信によるリアルタイム型とさまざまな形を組み合わせ、各教員が新しい授業の形に取り組んだ。PC環境が整っていない学生に対しては大学で新たにPC30台を購入し、希望する学生に無償で貸与した。5月31日に緊急事態宣言が解除されたことから、本学においては6月第一週から分散登校を開始した。この時期は消毒用アルコールが入手困難であり、次亜塩素酸水を校舎内の机・椅子・機器の消毒に使用した。教務の窓口には対面カウンターに透明ビニール幕を設置し、学生各人に携帯できるように次亜塩素酸水入りの小ボトルを配布した。最初は次亜塩素酸水であったが、6月中旬からアルコールが入手できるようになり消毒用アルコールを配布した。小ボトルには「コロナ危機を乗り越えよう!Re-try, Re-birth, Re-habilitation」のシールを貼り、医療従事者への支援のメッセージを託した。

6月第一週は、月曜日は一年生のみ、火曜日は二年生のみに登校とし、水曜日は学舎の清掃消毒のために休みとし、木曜日には三年生、金曜日には四年生に登校した。学生の登校がラッシュ時間と重ならないように午前10時10分の授業開始、60分授業4限の短縮とし、午後3時10分には授業終了とした。通学バスの運行時刻も授業に合わせてダイヤを組み直し、運行会社に乗車時の発熱者のチェックをお願いした。バスの窓を開放し過度に密集しないようにバスの臨時便も手配した。食堂の椅子配置と配膳方法には、最大限の感染拡大予防措置を取った。食堂の椅子数を通常の四分の一以下にして、隣席を空けて皆が同じ方向を向いての食事とした。またこれまでは料理を注文した後に、各人がご飯と味噌汁を自分でよそっていたが、衛生管理の観点から厨房職員がご飯とみそ汁をよそう形に変更した。お茶もこれまでは各自がポットから湯のみに注いでいたのを、直接手を触れない給茶機に変えた。もちろん、食堂の入り口には手指消毒のアルコール消毒液を設置し手洗い消毒を励行し、十分な間隔

を開けて座るようにお願いした。6月の第一週には、第一限の各専攻のホームルームにおいて学生たちの健康状況、遠隔授業の進行状況を各担任が細かく指導した。特に新入生に対しては、第一限の情報処理学入門で、通信ソフト teams を用いた遠隔授業の体制と進め方について説明した。週二回以降の危機管理委員会では、全体の進行状況、学生の健康管理などについて話し合いながら毎週の方向性を確認した。

6月第二週は、月曜日と火曜日に一年生と二年生、水曜日は学舎消毒のために休講、そして、木曜日と金曜日は三年生と四年生の登校日とした。月曜、火曜、木曜、金曜とも午前9時から午後3時10分までの5限60分の授業を行なった。短い期間に時間割を作成して、このような対応を可能にいただいた教務委員会と学務係の皆さんのご尽力には心から感謝している。

そして、6月第三週から通常授業の体制に復帰した。これまでの変則的な時間割から通常的时间割に服したのであるが、より大きな講義室を使用して教室内が三密にならないように配慮し、講義室の清掃消毒、窓の開放、一人空けての着席など、感染拡大予防に努めながら、通常的时间割をこなした。教員と学生諸君には、講義の開始時と終了時には、自分が使用した机と座席を各自で清拭消毒することをお願いした。

大規模校の多くが前期は全て遠隔授業で対応すると決めていた中で、本学は最も早い時期に対面授業に移行したことになる。6月の第三週と第四週は、これまでの授業の遅れを取り返すことで精一杯であったが、その遅れの程度は他大学と比較しても、最小限でこなせたように思う。実技系科目の授業については、二つの教室を使用しビデオ映像を見ながら二つの教室での授業とした。各実技系授業の実施に当たっては、感染拡大予防に留意し、それぞれの場面に応じてフェイスシールド使用やマスク着用や三密にならないような配慮を心掛けながら実施した。

7月からは、四年生の学外実習が始まった。本年度の実習先施設については各専攻ともコロナ禍のためにご遠慮願いたいと申し出られた施設もあり、その確保には苦労したが、本学では幸いにも十分な数の実習先を確保することができた。各専攻の四年生は、例年通り卒業研究発表会をこなした後、7月6日から学外実習に出かけた。理学療法学専攻と言語聴覚学専攻は予定通り8週間の学外実習を修了した。作業療法学専攻は9週間の学外実習の予定であったが、学生を二組に分けて、各組4週間の学外実習と4週間の学内実習を修了した。そして前期の授業と試験を2週間遅れで全て終了した。

課外活動については、4月から6月までは自粛としたが、7月からは顧問教員が付き添える場合のみグラウンドや体育館での部活を許可した。それに伴い地域からのグラウンドや体育館の使用の希望についても、申請書を提出していただき、感染拡大予防の措置が十分になされていると判断できる場合には、使用を認めることとした。

本学では、5月の体育祭や保護者説明会、実習指導者会議など、多くの行事や集会を断念せざるを得ない状況となったが、できるものについてはリモートで開催した。そのような厳しい状況の中でも学業の継続と学生支援を軸に大学運営を心掛けてきた。

高校生のためのオープンキャンパスは、感染拡大予防に十分留意しながら、6月14日、6月28日、7月12日、7月23日、8月2日、8月9日、8月16日、8月23日、9月6日、9月13日、10月18日、11月15日に開催した。

このような中で水間病院において感染クラスターが発生するという事態が起こった。8月16日（日）水間病院に入院中の患者5名に新型コロナウイルス感染症が確認され、水間病院では、直ちに院内消毒・患者様の感染防御強化・観察強化等を開始し、管轄保健所のご指導の下、新規入院の受け入れ停止措置が取られた。しかしながら日を追うごとに感染者数が増加し8月23日に累計感染者は、入院患者さん42名、職員13名となった、この1週間水間病院は本当に大変であったろう。なんとか感染拡大を一つの病棟に抑え込まれた

院長以下職員の皆さんに敬意を表したい。そしてようやく、新型コロナウイルスの感染症患者発生に伴う重要なお知らせ（第十一報）として9月7日をもって終息宣言が出され、9月8日より新規入院の受け入れが再開されることとなった。

9月18日から後期授業の開始に際しては、危機管理委員会および教務委員会にて、どのような形での授業にするかを議論した。8月4日の危機管理委員会で、第三波が来ることを見越して準備を進めておくとの方針が示され、教務委員会にて大幅な時間割の組み換えが行われた。基本的な方針は、授業科目を実技系と座学系とに区分して、実技系科目を月曜、火曜、水曜に配置し、座学系科目を水曜、木曜、金曜に配置することにより、感染拡大が起こった場合には、週の後半の授業を遠隔授業として、学生が登校しなくても済む時間割を策定した。このような対面授業と遠隔授業との日を組み合わせ、曜日ごとに登校日と登校しない日の分けをすることにより、感染拡大が大きくなった場合にも迅速に対応できる体制を準備した。

本稿を記述している10月中旬は、わが国では新規感染者数が減りつつあり、第二波が終息しかけているものの、ヨーロッパ諸国では再燃の兆しもあるという。冬場になると第三波が襲うであろうことはほぼ確実と考えられており、感染拡大の状況に合わせて遅滞なく適切に対応したいと思っている。

例年、学生が楽しみにしている学園祭も近隣住民に参加を呼び掛けての開催は断念せざるを得なかったが、その代替としてPOSTの学生と相談して、学生企画によるリモートカラオケ大会を開催した。学生にとっては、多くの大学でコロナ禍での学生生活が大きな制約を受けていると聞く。本学では、できるだけ充実した学生生活を送れるようにサポートしていきたいと考えている。

そうこうしている間にいつの間にか季節は移り、入学試験の時期が始まった。本学では9月のAO型前期から始まり年内に総合型選抜・学校推薦型選抜を行い、年明けから一般選抜を予定しているが、入学試験は大学にとって最も重要な行事である。万一、学内に感染者が発生した場合も想定しながら、入学試験の実施には万全の態勢を整えて対応している。

1918年のスペイン風邪（インフルエンザH1N1型による感染症）のパンデミックではわが国は1915年末の第一波、1920年末の第二波に襲われ、当時の人口の40%に相当する2300万人が罹患し、38万人が死亡したといわれている。

これから冬場を迎えることになるが、なんとか新型コロナウイルス感染症を乗り越えて進んでいきたいものである。

追記1

2021年2月2日に本稿を校正する機会があった。

2月1日時点での、世界の感染者数は102,584,351人、死亡者数2,222,647人。わが国の感染者数は391,844人、死亡者数は5,832人。大阪府下の感染者数は73,900人、死亡者数は930人と発表されている。わが国では2021年1月17日に二回目の緊急事態宣言が発令されており、当初2月7日までを目安とされていたが、さらに1か月程度延長される見込みである。

本学では、幸いにもこの一年間、学生の感染者はゼロ名、教職員の感染者もゼロ名であった。これからも感染拡大予防には十分の注意をして勤めていきたい。

追記2

2021年2月9日に本学学生1名がPCR陽性となったとの報告があった。